

令和元年度第2回臨時理事会 議事録

日時：令和元年6月22日（土）11:00～12:30

会場：都市センターホテル 3階 コスモスホールⅡ

出席者：

理事長：藤井 知行

副理事長：木村 正、八重樫 伸生

理事：青木 大輔、池田 智明、板倉 敦夫、苛原 稔、榎本 隆之、岡本 愛光、加藤 聖子、
北脇 城、吉川 史隆、京 哲、工藤 美樹、生水 真紀夫、関 博之、関沢 明彦、
千石 一雄、竹下 俊行、寺田 幸弘、檜原 久司、蜂須賀 徹、三上 幹男、村上 節、
山田 秀人

監事：岩下 光利、櫻木 範明、平松 祐司

顧問：小西 郁生、吉村 泰典

特任理事：海野 信也、大須賀 穰、荻田 和秀、宮城 悦子

幹事 長兼第72回学術集会プログラム委員長：阪埜 浩司

副幹事長：梶山 広明

幹事：岩瀬 春子、上田 豊、織田 克利、加藤 育民、河野 康志、木村 文則、桑原 章、
桑原 慶充、小松 宏彰、近藤 英治、関根 正幸、寺尾 泰久、西ヶ谷 順子、西郡 秀和、
平田 英司、矢内原 臨、山上 亘、矢幡 秀昭

議長：光田 信明

副議長：久具 宏司、小谷 友美

弁護士：平岩 敬一

名誉会員：宇田川 康博、神保 利春、中林 正雄

事務局：吉田 隆人、加藤 大輔、青野 秀雄

11時00分 理事長、副理事長、常務理事、理事の25名全員が出席し、定足数に達したため藤井知行理事長が開会を宣言した。藤井知行理事長が議長となり、議事録署名人として藤井知行理事長および岩下光利監事、櫻木範明監事、平松祐司監事の計4名を選出しこれを承認した。

I. 令和元年度第1回理事会議事録の承認

令和元年6月1日に開催された令和元年度第1回理事会議事録を承認した。

II. 業務担当理事報告並びに関連協議事項

1) 総務（青木大輔理事）

〔I. 本会関係〕

(1) 専門委員会

(イ) 生殖・内分泌委員会

i) 会議開催

令和元年第1回生殖・内分泌委員会

7月8日（月）

(ロ) 婦人科腫瘍委員会

i) 会議開催

ii) 腹腔鏡下広汎子宮全摘出術施行施設ならびに腹腔鏡下広汎子宮全摘出術登録施設における登録受付を開始する。「登録申請書の提出」の〆切りは令和元年に限り8月末日(令和2年以降は6月末日)としたい。 [資料:総務001]

(ハ) 周産期委員会

i) 1997年日本産科婦人科学会 周産期委員会による「妊娠中毒症の栄養管理指針」の推奨の停止について(会員へのお知らせ) [資料:総務002]

池田智明副委員長「わが国で1980年頃より低出生体重児の割合が増加し始めた主因は本会が妊婦に厳しい体重増加制限を推奨したことであるとの論文がサイエンス誌に掲載されたことに対して、本会としてはこれは誤認であるとして反論している。しかし同時に、推奨については歴史的役割を終えたと判断できるため、推奨を停止することを会員にお知らせしたい。」

(ニ) 女性ヘルスケア委員会

i) 書籍頒布状況(6月20日現在)

- ・低用量経口避妊薬・低エストロゲンプロゲステリン配合薬ガイドライン 2015
書籍版:5,873冊
- ・ホルモン補充療法ガイドライン 2017
書籍版:3,112冊
書籍版+ID/PW付き:1,018冊(うち、ダウンロード済み523件)
- ・女性アスリートのヘルスケアに関する管理指針
書籍版:907冊

ii) 厚生労働省で進めている緊急避妊薬のオンライン診療化の検討について [資料:総務1]
北脇城委員長「緊急避妊薬のオンライン診療が行えるのは、産婦人科医もしくは研修を受けた医師ということになった。研修内容については今後の課題である。1錠をその場で飲み、3週間後に産婦人科を受診するということになり、これは学会の意見が受け入れられた。ただそれをどう担保するかは今後の課題である。」

藤井知行理事長「対面での服用は難しいという意見もあったが、一応、ルールには入っている。」

(2) 事務局オフィス家賃改定について [資料:総務2]

青木大輔理事「東京五輪を控えて値上げとなる。年間の家賃は約450万円増加する。」

本件について特に異議はなく、全会一致で原案通り承認された。

(3) 栃木県産科婦人科学会より、名誉会員特例措置申請書(退会希望)を受領した。 [資料:総務3]

本件について特に異議はなく、全会一致で原案通り承認された。

[II. 官庁関係]

(1) 厚生労働省

① 本会ホームページに掲載し、会員に周知したい事項

部署	内容	資料
----	----	----

厚生労働省保険局保険課	出産育児一時金の受取代理制度を導入している 施設一覧の更新	総務 3-1
-------------	----------------------------------	--------

本件について特に異議はなく、全会一致で原案通り承認された。

(2) 福島県

福島県知事より、福島県「県民健康調査」検討委員会委員の推薦依頼を受領した。[資料：総務4]
青木大輔理事「福島県地方学会の藤森敬也先生に相談して進めたい。推薦者についてはお任せいただきたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で原案通り承認された。

〔Ⅲ. 関連団体〕

(1) 日本医学会連合、日本医学会

① 日本医学会からの会員周知依頼に基づき、本会ホームページに掲載し会員に周知したい。

原依頼部署	内容	資料
厚生労働省医薬・生活衛生局 医薬品審査管理課	ニボルマブ（遺伝子組換え）製剤の最適使用推進ガイドライン（非小細胞肺癌，悪性黒色腫，頭頸部癌，腎細胞癌，古典的ホジキンリンパ腫，胃癌及び悪性胸膜中皮腫）の一部改正について	総務 5-1
厚生労働省医薬・生活衛生局 医薬品審査管理課	ペムブロリズマブ（遺伝子組換え）製剤の最適使用推進ガイドライン（非小細胞肺癌，悪性黒色腫，古典的ホジキンリンパ腫，尿路上皮癌及び高頻度マイクロサテライト不安定性（MSI-High）を有する固形癌）の一部改正について	総務 5-2

本件について特に異議はなく、全会一致で原案通り承認された。

② 日本医学会で医学用語管理委員会の森内 浩幸先生から、医学用語の中の「奇形」という言葉を見直すためのワーキンググループを立ち上げるにあたり、本会から委員を出してほしいとの依頼があった。 [資料：総務 6]

青木大輔理事「久具宏司先生にお願いしたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で原案通り承認された。

(2) 日本がん治療認定医機構

日本がん治療認定医機構が先月開催した2019年度関連学会連絡委員会で依頼してき「E-learning 利用に関するアンケート」の回答を作成した。 [資料：総務 7]

青木大輔理事「本会はE-learning のシステムを持っているので利用することはないが、サブスペシャリティ学会にはニーズがあるかもしれない。」

本件について特に異議はなく、全会一致で原案通り承認された。

(3) 国立成育医療研究センター

妊娠と薬情報センター長より「妊娠と薬情報センターフォーラム」（10月20日：京王プラザホテル）への後援名義使用依頼を受領した。経済的負担はなく例年の依頼であり、これに応諾したい。

[資料：総務 7-1]

本件について特に異議はなく、全会一致で原案通り承認された。

[IV. その他]

(1) 公益財団法人山口内分泌疾患研究振興財団

山口内分泌疾患研究振興財団より、2019年度研究助成金募集のお知らせを受領した。本会ホームページに掲載し、会員に周知したい。

[資料：総務 8]

本件について特に異議はなく、全会一致で原案通り承認された。

(2) NPO 法人 Fine

NPO 法人ファインより、「Fine 祭り 2019 聴きたい! みんなの妊活」への後援名義使用申請を受領した。

[資料：総務 9]

本件について特に異議はなく、全会一致で原案通り承認された。

青木大輔理事「理事会や委員会などの出欠通知をメールベースにすることを考えている。まず運営委員会で検討をしたい。」

2) 会 計 (吉川史隆理事) 特になし

3) 学 術 (木村正副理事長)

(1) 学術委員会

①他団体からの受賞候補者推薦依頼（上原賞、科学技術分野の文部科学大臣表彰（科学技術賞、若手科学者賞、研究支援賞）について

[資料：学術 1]

木村正副理事長「応募者多数の場合は、学術委員会で選定することにしたい。」

4) 編 集 (加藤聖子理事)

(1) 会議開催

JOGR 編集会議（通信）	6月1日～10日
---------------	----------

(2) 英文機関誌（JOGR）投稿状況：2019年5月31日現在

2019年投稿分の投稿・審査状況（2019年5月31日締め）

投稿数	599
Accept	22
Reject	318
Withdrawn/Unsubmitted	81

Under revision	35
Under review (審査中)	143
Expired	0

2018年投稿分の投稿・審査状況 (2019年5月31日締め)

投稿数	1,660
Accept	286
Reject	1,215
Withdrawn/Unsubmitted	114
Under revision	13
Under review (審査中)	17
Expired	15

加藤聖子理事「2018年のインパクトファクターは1.122となった。昨年の1.091から少し上がった。」

5) 渉外 (岡本愛光理事)

(1) AOFOG 関連

①2019-2021年 AOFOG Committee Representatives 候補として、本会より以下の2名を推薦したい。

- ・ Minimally Invasive Gynaecologic Surgery : 岩手医科大学産婦人科 馬場長教授
- ・ Maternal Fetal Medicine : 順天堂大学産婦人科 牧野真太郎先任准教授

本件について特に異議はなく、全会一致で原案通り承認された。

②11月13日、フィリピン マニラにて開催の AOFOG General Assembly にて、岡本愛光渉外委員長、および万代昌紀 Committee Chair が本会の投票権2票を行使する予定である。

(2) 日韓台関連

2020年 TAOG Annual Congress より開始予定の、日韓台 Exchange Program 派遣の若手医師による論文について、TAOG が周産期、KSOG が婦人科腫瘍、本会が生殖内分泌を担当することとなり、本会からのメンターとして桑原慶充幹事を TAOG に推薦した。

(3) 2020年表彰の海外名誉会員推薦について

[資料：渉外1]

岡本愛光理事「韓国からSeung Cheol Kim先生、台湾からTsung-Cheng Kuo先生を推薦したい。」

藤井知行理事長「両先生は、それぞれ韓国、台湾の学会理事長であり、J-K-Tのアライアンスに貢献していただいた。」

本件について特に異議はなく、全会一致で原案通り承認された。

(4) FIGO 関連

FIGO World Congress 2021 の周知・集客について、Organizing Committee Chair Dr. Andre Lalonde より提案のメールを受信した。 [資料：渉外2]

岡本愛光理事「メールの内容は、第72回学術集会の際にFIGO2021 プレジデントのプレゼンの場を設けて宣伝活動を行いたいということと、集客のためにFIGO2021 に日本語セッションを設けたいということである。通信で渉外委員会を開催し、前者については賛成、また登録費等は担当校負担とすることが了解された。後者については反対することにした。」

6) 社 保 (北脇城理事) 特になし

藤井知行理事長「厚生労働省からの情報では、妊婦加算についての検討会が終了し、妊婦さんには特別の配慮が必要ということになった。妊婦加算適用の条件として、妊婦さんに薬を処方した場合は母子手帳にそれを記載すること、また何らかの研修を受けた医師が加算を得られるということになる。法改正を行わずに妊婦さんの負担にならないように実施する方法を検討したい、ということであった。」

木村正副理事長「大学病院などで他科がシステマ的に看ている場合にも研修は必要なのか。」

藤井知行理事長「大学病院であっても内科医や外科医には研修が必要になる。しかしあまり厳しくすると、対応してくれなくなる。なお当たり前ではあるが、妊婦加算は産婦人科に一番メリットが大きいということである。」

7) 専門医制度 (八重樫伸生副理事長)

(1) 会議開催

2019年度第2回中央専門医制度委員会、全国地方委員会委員長会議	6月23日【予定】
----------------------------------	-----------

(2) 日本専門医機構について

① 2020年度専門研修プログラムの審査について [資料：専門医1]

八重樫伸生副理事長「日本専門医機構からの来年のプログラム申請依頼が6月19日にやっと届いた。明日の中央専門医制度委員会で、産婦人科で独自に追加する申請書類を決め、地方委員会で説明した上で各基幹施設に資料を送りたい。」

藤井知行理事長「次期の中央専門医制度委員会では、シーリングが適用された場合の具体的な調整スキームについて検討いただきたい。」

8) 倫理委員会 (苟原稔委員長)

(1) 母体血を用いた出生前遺伝学的検査 (NIPT) について [資料：倫理1-1、1-2、1-3、1-4]

苟原稔委員長「指針見直しのポイントは資料1-1の通りである。この指針改定案を検討いただき、学会の意見として承認いただきたい。」

藤井知行理事長「この件について、1か月ほど前に厚生労働省母子保健課長が来て、指針の改定につ

いてはもう少し待ってもらえないかと言ってきた。そして昨日 15 時半に本日配布している資料 1-4 を持ってきた。本会は学術団体として、妊婦さんが NIPT を巡って右往左往している最悪な状態に対応する現時点で取りうる最良の指針を作ったので、学術団体の責任としてこれを公表したいと考えている。ただし、医療については国が責任を持つべきものなので、指針の実施については厚生労働省の議論を見守りたいということにしたい。問題は HPV ワクチンのように塩漬けにされることなので、こちらからは『半年くらいで結論は出してほしい』と言ったが、それには厚生労働省も『そうですね』ということであった。このあとは新理事会に対応していただきたいが、現理事会としては、この指針全文を公表して国民にもご判断いただきたいと思っている。それについては厚生労働省も了解しているし、同省から送られた依頼文の公表についても了解している。」

苛原稔委員長「この指針改定は理事会で決定できるが、定時総会でも説明して、了承を受けておきたい。厚生労働省での議論がまとまるまでは改定された指針の運用は行わないが、議論がまとまった後の対応については新理事会にお願いしたい。先日、日本医学会に本会の立場や考え方を説明してきたが、最終的には理解いただいたと考えている。昨年 8 月からおよそ 1 年かけて検討した指針で、かなり練られたものになっているので、ぜひこれをご承認いただければと思う。」

光田信明議長「定時総会で代議員に了解を得るのは、指針についてなのか、この後の方向性についてなのか。」

苛原稔委員長「指針の改定は見解の改定と異なり総会承認を必要としないが、その重要さに鑑み、総会で報告して了承を得たというプロセスを加えたい。時間が経っても本会がどう判断したかについてきちんと示せるようにしておきたい。」

久具宏司委員長「総会で代議員に十分理解した上で判断してもらいたいということから、資料 1-1 の『見直しの趣旨と要点』を作成している。」

吉村泰典顧問「総会ではまず指針改定について了承していただいた上で、厚生労働省の通知が出たのでこれを遵守したい、というように進めるのがよい。」

藤井知行理事長「今回の指針改定により、無認可施設は、より自由に NIPT を行えることになってしまいが、厚生労働省が乗り出すことでその問題は解消されることになる。」

藤井知行理事長「それでは指針の改定についてはこの理事会で承認いただいた。ただしその運用については厚生労働省の検討会の議論を見守ることにしたい。またその期間については新理事会で協議いただき、記者会見で話してもらいたい。ところでこの見守る期間について、総会で質問されたらどう答えるか。」

苛原稔委員長「その場合は私から、厚生労働省には『約半年程度しか待てませんよと言った』と回答したい。」

青木大輔理事「NIPT を扱っている会員の先生はその半年間、なにを元に検査を行えばよいのか。」

苛原稔委員長「新しい指針が動き出すまでは従来の指針を遵守していただくことになる。」

本件について特に異議はなく、全会一致で原案通り承認された。

(2) PGT-A 臨床研究の次期計画について

[資料：倫理 2]

苛原稔委員長「PGT-A のパイロット試験の終了についてはすでにご報告しているが、現在、論文化しているところである。次の臨床研究を計画しているが、ART 実施施設は、着床前診断に関する審査小委員会で承認されている 68 施設から手を上げてもらい、倫理委員会で選定したい。また解析施設は衛生検査所の資格がある施設で、本会の見解に同意する希望する施設の中から倫理委員会で選定したい。カウンセリングには臨床遺伝専門医に加わってもらう予定である。2 年半ほどの間に 1,000 例以上行いたい、毎年一定のところまで切って遺伝的意義の有無を検討してその都度、可否

を決めたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で原案通り承認された。

(3) 本会の見解に基づく諸登録（令和元年5月31日）

- ・ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録：92 研究
- ・体外受精・胚移植の臨床実施に関する登録：617 施設
- ・ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録：617 施設
- ・顕微授精に関する登録：581 施設
- ・医学的適応による未受精卵子、胚(受精卵)および卵巣組織の凍結・保存に関する登録：104 施設
- ・提供精子を用いた人工授精に関する登録：12施設

(4) 着床前診断に関する申請・認可について

- ・施設申請98件《承認68施設（うち4施設は条件付）、照会8施設、審査中22施設》 [資料：倫理3-1]
- ・症例申請：861例《承認721例、非承認24例、審査対象外37例、取り下げ5例、照会23例、保留4例、審査中47*件（*6/11現在）》（承認721例のうち72例は条件付） [資料：倫理3-2]

9) 教育（竹下俊行理事）

(1) 会議開催

試験問題作成委員会	6月22日
-----------	-------

(2) 書籍頒布状況 6月20日現在

産婦人科研修の必修知識 2016-2018	1,055
産婦人科研修の必修知識 2016-2018 電子版付き	620
産婦人科研修の必修知識 2016-2018+例題と解説集	594
産婦人科研修の必修知識 2016-2018 電子版付き+例題と解説集	737
うち必修知識ダウンロード	967
用語集・用語解説集改訂第4版（書籍版）	552
用語集・用語解説集改訂第4版（電子版付）	764
うちダウンロード済み	402
専門医試験例題と解説 2016	1,285

(3) 必修知識発刊時期について

2020年8月を目標として発刊を予定したい。著者には査読者の意見を添付して戻すとともに産婦人科診療ガイドラインとの齟齬の確認について依頼している。締切：7月15日

竹下俊行理事「専門医試験は2020年8月末なので、その前に発刊すると受験生が混乱するため、試験が終わってからの発刊になる。」

(4) 2019年度専門医認定試験問題作成について

作成委員会内での意見交換等も順調に進んでいる。

なお、作成委員については機関誌に氏名を掲載し、謝意を表したい。

(5) 厚生労働省国際分類情報管理室から日本産科婦人科学会に依頼があった ICD-11 和訳作業は用語

集・用語解説集委員会の先生方の協力により終了した。
今後、他学会からの確認の依頼が予想されるが、次期教育委員会の用語委員会で検討予定である。

10) 地方連絡委員会（八重樫伸生委員長） 特になし

III. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

1) 広報委員会（榎本隆之委員長）

(1) JOB-NET 公募情報について

①JOB-NET 事業報告 [資料：広報1]

(2) ホームページについて

①ホームページアクセス状況について [資料：広報2]

(3) ACOG Website 会員専用ページログイン人数について [資料：広報3]

(4) HUMAN+/Baby プラスについて

①株式会社エブリーより6月の新規webサイトとアプリの立ち上げにあたり、HUMAN+の記事を使用してほしいとの依頼があった。検討した結果、転載利用料が折り合わなかったことと本会のメリットが特に見当たらなかった事により見送りとした。

②アプリ版Baby プラスに歯科医師会が監修した「予防歯科ガイド」のサービスを開始するにあたり、メディア向けにプレスリリースを行う予定である。

2) 災害対策・復興委員会（村上節委員長）

(1) 大規模災害発生時のホームページ災害モード「ワンクリック切替機能」追加について

当機能作成にかかる費用は52万円（税込）であるが、災害対策を目的としたホームページ機能追加として義捐金（残金約110万円）を活用させていただきたい。 [資料：災害対策1]

村上節委員長「6月18日に山形県沖地震があった。地震直後に新潟の榎本隆之先生、山形の永瀬智先生と連絡を取り、また小児周産期リエゾンの先生方にも連絡を取って対応した。さいわい周産期医療の混乱はなかった。今回のようなケースでは大規模災害サイトのバナーがホームページのトップに来てこのサイトを利用しやすくするが、この切り替えをスムーズに行えるように機能追加を行いたい。過去の災害で本会に贈られた義捐金を利用して速やかに改訂を進めたい。」
本件について特に異議はなく、全会一致で原案通り承認された。

榎本隆之理事「先日の地震では、藤井理事長始め村上先生からすぐにご連絡いただいた。さいわい関連病院のあった村上市、鶴岡市の病院でもお産には全く影響がなかった。どうもありがとうございます

ました。」

3) 診療ガイドライン運営委員会 (工藤美樹学会側調整役)

(1) 産科編委員会 (板倉敦夫委員長)

① コンセンサスマーケティング開催予定

第4回コンセンサスマーケティング (松本) 長野県松本文化会館	7月14日 (日)
---------------------------------	-----------

② パブリックコメント募集掲載

学会機関誌8月号と10月号にガイドライン2020の案を掲載し、会員の皆様からのパブリックコメントをいただくように予定している。

③ 「産婦人科診療ガイドライン-産科編2017」頒布状況について (6月20日現在)

書籍版 : 13,188 冊
書籍版+ID/PW 付き : 2,452 冊
電子版ダウンロード : 2,103 件

(2) 産科編評価委員会 (田中守委員長) 特になし

(3) 婦人科外来編委員会 (小林浩委員長)

① パブリックコメント募集掲載

学会機関誌7月号と9月号にガイドライン2020の案を掲載し、会員の皆様からのパブリックコメントをいただくように予定している。

② 「産婦人科診療ガイドライン-婦人科外来編2017」頒布状況について (6月20日現在)

書籍版 : 7,822 冊
書籍版+ID/PW 付き : 2,017 冊
電子版ダウンロード : 1,793 件

(4) 婦人科外来編評価委員会 (若槻明彦委員長) 特になし

4) コンプライアンス委員会 (山田秀人委員長) 特になし

5) 医療改革委員会 (海野信也委員長)

海野信也委員長「働き方改革について、厚生労働省でタスクシフティングのヒアリングを行っている。本会へのヒアリングは7月末に行われる予定である。産婦人科のタスクシフティングは、助産師との連携について今まで以上に踏み込んで話をする必要があり、日本看護協会とも調整を始めている

ところである。」

6) 男女共同参画・ワークライフバランス改善委員会 (千石一雄委員長)

- (1) 本委員会 HP 内コンテンツ「わたしの ON/OFF」に投稿いただいた 6 名の先生方の記事を掲載した。
<http://www.jsog.or.jp/wlb/onoff/index.html>

7) 産婦人科未来委員会 (生水真紀夫委員長)

- (1) 専門医試験受験者へのアンケートについて

若手委員で案をまとめた上、実施について中央専門医制度委員会にも承認を得る。
なお、当日は東京会場、大阪会場へそれぞれ 2 名の若手委員が出向く予定である。

- (2) 学会ホームページ「産婦人科医への扉」への地方開催研修会等案内掲載について
以下の掲載ルールで運用したい。

◇掲載可能なイベント：産科婦人科学会会員等が主体となって実施するリクルートイベントであること。特定の基幹研修施設への勧誘を目的として行われるいわゆる「入局説明会」は除きます。

◇掲載申し込み方法：掲載情報を PDF ファイルにして、「イベント情報掲載希望」と記載し、責任者の連絡先と氏名(役職)などの情報とともに、学会事務局 未来委員会まで送付して下さい。

◇提供情報 PDF ファイルは、申込者の責任で内容を十分吟味して作成して下さい。イベント内容の問い合わせ先を必ず記入して下さい(産科婦人科学会では、問い合わせには応じません。主催者側での対応をお願いします。)

本件について特に異議はなく、全会一致で原案通り承認された。

- (3) 第 13 回産婦人科サマースクール参加者募集について

2019 年 6 月 3 日 (月) 正午～6 月 22 日 (土) 23 時 59 分まで募集を行っている。

生水真紀夫委員長「今年も必要に応じて 1～2 回の募集期間の延長を考えている。」

8) 女性活躍のための健康推進委員会 (大須賀穰委員長)

- (1) 5 月 31 日、日本経済社、日本経済新聞社を交え、2020 年女性の健康週間活動についての打ち合わせを行った。

9) 医療安全推進委員会 (村上節委員長)

(1) 日本医療安全調査機構より、平成31年5月末時点での医療事故調査制度の現況報告を受領した。
[資料：医療安全1]

(2) 日本医療安全調査機構より、医療事故の再発防止に向けた提言第9号「入院中に発生した転倒・転落による頭部外傷に係る死亡事例の分析」(<https://www.medsafe.or.jp/>) を受領した。

(3) 日本医療安全調査機構 医療事故調査・支援センターより、センター調査の協力学会として令和元年度に協力頂ける先生方のリスト更新依頼を受領した。各ブロックより65名の先生方に内諾いただき、既に回答済である。
[資料：医療安全2]

(4) 日本医療安全調査機構の定時社員総会が5月29日開催され、佐藤美紀子主務幹事が出席した。

10) 公益事業推進委員会 (八重樫伸生委員長) 特になし

11) 児童虐待防止のための女性支援委員会 (荻田和秀委員長) 特になし

IV. 令和元年度定時総会運営について

[資料：総会1]

藤井知行理事長「定時総会では、妊婦加算についての質問が来ている。」

北脇城理事「単純な復活ではなく条件を付ける方向であるが、今後、中央社会保険医療協議会で議論され、令和2年度から復活の見込みになる。」

最後に藤井知行理事長から、4年間の任期を振り返りみなさんの協力に感謝したいとの挨拶があった。

以上